



Vol. 108

CONTENTS

【コラム】 高校を卒業する前に… 野坂 幸子

【解説】 意気の良い先生、育ってます—それから—鈴木 貢

【解説】 プログラミング教育を指導する人材はどのように育成すべきなのか…尾崎 拓郎

COLUMN

高校を卒業する前に



もうずいぶん前のことです。小学校のPTAで名簿を作るという仕事を頼まれたことがありました。「これを作ってほしいの」と、紙に印刷されたExcelの表を渡されたので、データをくださいとお願いしたところ、夜になって、メールでJPEGのファイルが送られてきました。名簿担当の役員さんが、印刷された表をスキャンし、メールに添付して送信してくださったのでした。

当時、家庭の機器でそこまでできる人はあまりいなかったと思います。意欲がありスキルもあるのに、Excelというソフトの存在を知らなかったために起きた出来事でした（結局名簿は、イチから入力することになりました）。

また、消費者教育についての集まりで、「Webサイトに個人情報を入力するときには、URLが本物かどうか、通信が暗号化されているかどうかを確認してください」と話したところ、URLって何ですか、暗号化されているかどうかはどうしたら分かりますか、と聞かれたことがありました。

「Webブラウザの上の方にある、細長い窓の中のアルファベットがURL。ここにhttpsと書いてあるかを見てください」と言ったら、ああ、そんな簡単なことでしたか、という反応でした。

本会の先生方には当たり前の、このようなこまごまとした知識は、情報社会の恩恵を受ける側にあっても、もちろん必要です。その知識がなければ、情報機器の説明書を読んだり、上手に使いこなしたりするのは難しいでしょう。ネットワーク犯罪の被害者になったり、ときには加害者になったりすることがあるかもしれません。しかしこのような知識を系統的に得る機会は、日常生活の中では意外と少ないのではないのでしょうか。

2003年に高等学校で情報科の授業が始まり、生徒はそれらを学ぶことができるようになりました。私は情報科の教科書を編集する仕事をしております。高校生には、思考や判断や表現のために必要なさまざまなことを学んでから卒業してほしい、そんな気持ちで教科書をつくっています。

身近で手軽で信用できる参照元として教科書が役に立てば、こんなにうれしいことはありません。

野坂幸子(東京書籍(株))